

中学校1年生 美術 表現「見て描く楽しみ」 (教科書P.8~P.11, P.49~P.50)

1年 () 組 氏名 ()

目標: 対象の質感等を捉えて絵具の性質をいかし、意図に応じて工夫して表すことができる。



ステップ1: 学習の進め方を確認しよう

- 教科書P50を見ながら絵具を使いその性質に触れよう。(①)
- 「心ひかれたもの」をテーマに鉛筆、ボールペン、絵の具等を使いスケッチをしましょう。(②別紙で説明)
- 作品で意図したことや工夫したことについて記入し、絵の具の性質をどのように活用できたのか考えよう。(③④)

ステップ2: 自分でやってみよう

① にじみ・かすれに挑戦してみましょう。(P50 線描、吸い取りも読んで確認を)



(※小学校の時に使っていた水彩絵の具でかまいません。)

(絵の具がない場合は、鉛筆やクレパスで塗ったのを指などでこすってみたり、消しゴムなどを使ってグラデーションをしてみたり、身近な画材でできる表現を探してみましょう。)

絵の具を使ってにじみを作ってみよう。

※ 画用紙に挑戦し、1番うまくいったのを貼ろう。

「にじみ」はどんな表情を表現するときに活用できそうか、いくつか考えてみましょう。

(例: 夕焼けのような自然な色の変化)

絵の具を使ってかすれを作りてみよう。

※ 画用紙に挑戦し、1番うまくいったのを貼ろう。

「かすれ」はどんな表情を表現するときに活用できそうか、いくつか考えてみましょう。

(例: 砂などざらざらした面)

② 別紙に「心ひかれたもの」をテーマにスケッチをしましょう。(別紙)

③ 作品テーマと、心ひかれた理由、作品の意図について記入しましょう

作品テーマ：_____

④ 絵具の性質を捉えてどのように工夫したかについて記入しましょう

ステップ3：学びを生かして挑戦してみよう！

- ・筆以外の用具を使って、新たな絵具の特性を引き出してみよう。
 - ・絵具以外の材料（墨、色鉛筆やペンなど）も併用して描いてみよう。
 - ・「季節の喜び」をテーマにハガキにスケッチし、お世話になっている人に送ってみよう。
- ※ ハガキにメッセージと簡単な作品の説明を書いておこう。（例：「家の庭で春を見つけました」等）

自己評価をしましょう

この自己評価は皆さん自分が自分の学びを振り返るためのもの、皆さんの理解度や疑問を知るためのもので先生の評価とは関係ありません。

課題①④ 自分自身で絵具の性質や質感を捉えることができましたか。

十分に まずまず 自信がないが できなかった
できた。 できた。 なんとかできた。

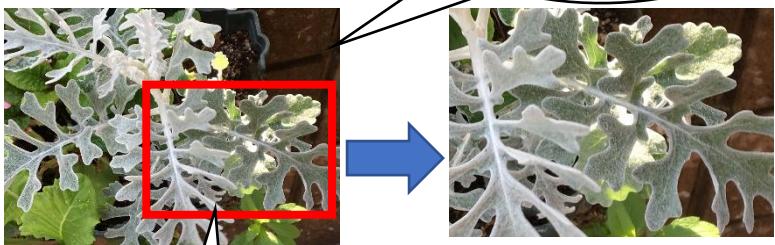
課題②③ 身近なところから「心ひかれるものを」見つけ意図に応じて工夫できましたか。

十分に まずまず 自信がないが できなかった
できた。 できた。 なんとかできた。

学習を終えて、わからないこと、疑問に思うことがあれば書き出しておこう。



(別紙) 課題②: スケッチ



緑色と迷彩柄のような
葉っぱの形が魅力

【構図】

すべて収める必要はありません。「心ひかれたもの」でも「特にココ！」を大きめに描きましょう。余白は描きたいものが美しく見えるようにとりましょう。

この部分が
特にいい！

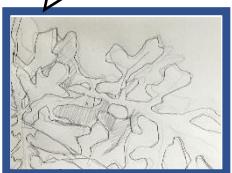
タテ・ヨコ自由

【彩色ポイント①】

- ・使う色は少なくて良いです。
- ・はみ出してもボールペンの線が強いので気にしなくて大丈夫。
- ・輪郭線に沿って塗る必要はありません。大きめの筆に絵具を含ませて、絵の具をぼてっとのせるように色をおきましょう。



はみ出る位
大きめに！



必要のないところは省く。
形通りよりも特徴が大事！

【下書き】

「見た目通り描く」よりも心ひかれたものの「特徴をよく捉える」ように描くことがポイントです。下書きが終わったら、ボールペンや極細油性ペンで線をなぞっておくと形の特徴がより際立たせることができます。

【彩色ポイント②】

- ・スケッチはたくさん塗り重ねる必要はありません。大切だと思われる部分のみで他は色をよく見て混色し一回だけあっさり着色する部分もあった方がメリハリがあります。
- ・濃淡を水の量で調節すると自然な色あいができます。
- ・白色は使わず、薄い色を表現するときは水の量を多くすると紙の白が生かされて淡く自然な色に仕上がります。

色鉛筆やペンも併用してみた。

はみでても大丈夫！おおらかに！

